

医家随想



ウナギを追う話

出来尚史

子供の頃「大海原に大海蛇（巨大ウナギ）を追う」という夢を抱いていた。夢の出どころは少年向きの科学读物である。いわく

ウナギの稚魚レプトセファルスは体長五センチ。成魚は一メートル。約二十倍の大きさに成長する。一九三〇年南大西洋で一メートル八十四センチのレプトセファルスが捕獲された。この個体がそのまま成魚になったとすれば優に三十メートルを超えたであろう。古来船乗りたちに恐れられてきた大海

蛇の正体は大ウナギだったのではない
か云々

紺碧の海を割って突如躍り出る巨大生物。轟音とともに流れ落ちる水塊。「いたぞ、あそこだ！」急旋回をしてわが探査船が後を追う。今日こそ、その正体を見届けるのだ

ああ、血沸き肉踊るこの勇壮なイメージに、胸ときめかせめ男児がいたであろうか。

私が生まれ育ったのは四国の高知である。昭和二十年代にはまだ市街地の細流にもウナギが棲んでいた。年高の連中は竹ひごの先に針とミミズを付けて石垣の隙間に挑戦。さしたる伎倆を持たない私たち年少者は小型の金網で水生植物の根

元を狙った。

十センチほどの仔ウナギが獲れた時には思わず歓声をあげたものだ。網の中で体をくねらせるさまは愛らしい。この小さな生き物がかかるばる大海を渡って来たのかと一種不思議な感動を覚えた。もしかしたら大海蛇の身内かもしれない。そう思っただけで金網の中の小宇宙は俄に神秘性を帯び、遠く太平洋にまで展開していくのであった。

それから半世紀余りがたつ。

科学者たちが粘り強い調査を続け、謎の多いウナギの生活史にも光が当たるようになっていった。

二ホンウナギの産卵場所はマリアナ諸島西のスルガ海山付近らしい。孵化した幼生は細長い葉形のレプトセファルスとなり、海流に乗って日本近海に移動。ついでシラスウナギに変態して河口に到達する。

シラスウナギはウナギの形ではあるが

色はなく透明に近い。就学前の児童といつたところか。汽水域で体を慣らしクロコとなればしめたもの。勇躍マイホーム開拓へと出発だ。急流に怯まず、湯水にもめげず、仔ウナギは川を遡上し成魚となる。ここまで五年から十年と言われている。

成熟したウナギの次の旅は産卵のための川降りである。河口では往路と同じように汽水域で順応期間をおく。その後海に入り、二千五百キロ離れた生まれ故郷を目指すのだ。来る時は海流に乗ったが、今度は逆方向。帰りのルートは未だわかっていない。

さて、と考える。この生活史のごとにわが巨大ウナギが収まるのか。川では大きくなるのは難しい。つまり、降海後しかあるまい。産卵に関与せず、あるいは産卵の後、ひたすら長生きして大型化するというシナリオだ。しかし、川を出る時にはたかだか一メートル。巨大ウナギは推定二十から三十メートル。その懸絶

はなはだしく可能性ありと胸を張って
は言い辛い。

ひるがえって、件の大型レプトセファ
ルスのこと。彼あるいは彼女はいったい
何者であつたのか。

実はこれ、その後の研究によってウナ
ギとは別種の魚であることが判明した。

この種の魚はレプトセファルスの大きき
そのままで変態し、成魚になるそうであ
る。つまり二メートルを大きく超えるこ
とはないということだ。

大海蛇イコール巨大ウナギ説はどつに
も旗色が悪い。一九七〇年以降信頼する
に足る大海蛇の目撃報告は絶え、私の夢
もいつの間にかしりすぼみとなつていた。

夢が潰えたからといって本家本元への
思いが薄れたわけではない。きらめく陽
光、清冽な流れの中に身を置き、元気な
仔ウナギや黄色い腹をした堂々たる親ウ
ナギに会いたいと思う。

しかし川はもう昔の川ではない。高知

市内ではウナギの姿を見ることが難しく
なつた。清流で知られる仁淀川や四万十
川でもその数が激減したと聞いている。

原因の一つは養殖目的のシラスウナギ
の乱獲である。海から上がってきたシ
ラスウナギを河口で一網打尽にする。難
を逃れるものは一割にも満たないらしい。
これでは親ウナギが減少するはずだ。

いま一つの原因と目されているのは河
川環境の劣化である。ダムや護岸工事、
また水、餌の変化などウナギの成育には
不利な材料が揃つてしまつた。卵を孵し
幼魚を育む海の環境も変わりつつある。

このまま行けば、日本中の川や湖沼か
らウナギがいなくなる日がくるかもしれ
ない。大海蛇は幻でもよいが、ウナギが
幻となるのは寂しい気がする。川底に潜
むウナギも人間の所業を苦々しく思つて
いるに違いない。

『素人鰻』という落語がある。鰻屋の
親方が、手の中から逃げそうになる鰻を

追って店の外を右往左往する。オチはこうなる。

「おーい親方、どこ行くんだい」

「えーっ、どこ行くって？ 前に回って鰻に聞いてください」

現代版『素人鰻』はこうだ。

「おーい鰻、どこ行くんだい」

「どこ行くって？ 後に回って、人間に聞いてくれ」

いろはにほへつ

星野達夫

色は匂へど散りぬるを

朝 起きがけに何の脈絡もなく、子供の頃遊んだ犬棒カルタを思い出した。犬も歩けば棒に当たる」に始まるいろはがるたである。どの札にも含蓄のある句が書かれていてしかも生活に密着している。基本になる歌がまた大変意味深く、唱え

るたびに新たな発見がある。「色は匂へど散りぬるをわが世誰そ常ならむ 有為の奥山今日越えて浅き夢見し酔ひもせず」。この句の前半はこの世の移ろいやささ、後半は世俗を超越した悟りの境地を詠んだものだというが、還暦を越えてなお浮き世の誘惑にゆれ続け悟りの境地にはほど遠い我が身にはもっぱら前半の諸行無常がひしひしと伝わってくる。しかもこの歌の中に48文字がすべて入っているという奇跡のような事象にはつくづく感服する。これを詠んだ人は言葉つかいの天才に違いない。あとで調べたら作者は空海とするものをはじめ諸説あるがよみびと不詳のことごとであった。

記憶力だめし

このカルタにある48の句をいくつ思い出せるだろうかとふと思った。よし、どのくらい覚えていたか挑戦してみよう。あいつえお順の、あ、からいつてみよう。「あ、あ、はなんだっけ。思いだせない。

いは「犬も歩け」だ。「う」？「う、う、う、とつなるが出てこない。「え」は？「お」は？ やっぱりでない。それなら「カ行」、「サ行」と思い出そうとしたが、焦るせいかまったく出てこない。記憶力の異常な減退だ。ウィルスで無残にかき消されたコンピュータ画面が眼に浮かぶ。

と、唐突に、「瑠璃も針も照らせばひかる、が頭に浮かんだ。たちまち、「安物買いの銭失い」が続く。アイつえお順でないものがどうして頭に浮かんだのだろうか。そうだ、いろはカルタだから、いろは順でなければと気がついた。「い」は「犬も歩けば棒に当たる、る、る」は「論より証拠」「は」「花より団子」「何てことない、しかし」「に」には出ない。「ほ」？「う」も出ない。「へ」は簡単。「へ」をひいて尻すぼめる。子供の頃このころ笑いながらすぐ覚えたもの、「う」は「う」は思い出しやすい。しかし、いろは順にしてもなかなか思い出せない

ことに気づいた。

記憶力抜群

身支度を整えた玄関で靴を履きながら、先週来院した狭心症の患者に専門病院を紹介する約束をしていたことをふと思い出した。どの病院がいいか迷っている。「帯に短したすきに長し」が出た。駅に向かう道すがら、積もり始めた落葉を踏んで「ちりも積もれば山となる」、この辺は夏の盛りに蜂が多かったことを思い出したところで「泣きつ面に蜂」、今日も忙

「つたにすは・ひとこと」

あさ た たか あき
浅田高明

以前、本クラブの文芸部に所属し時々、この機関誌にも主として太宰治関連の駄文を載せて貰っておりました。今回、再入会いたします。どうかよろしく、お願い申し上げます。

(内科・呼吸器)

しい外来が待っているぞと思つた途端「貧乏暇なし」が頭に浮かんだ。地下鉄表参道駅の狭い階段から地上に出しなげ頭に広がる青空が突然目に飛び込み「よしの髄から天井のぞく」。通学途中の女子大生にエステのビラ配りをする若い男が断られるのを見て「せいてはことを什損じる」。目に入ってくる光景が連想の引き金を引き、忘れかけていたものを記憶の底から呼び戻すのだろうか。なんだ、結構覚えていてではないか、こんな遠い昔に覚えたことがすら出るとは自分の記憶力はひょっとして抜群なのではないかと一瞬思う。

さあこの余勢を駆つて思つたとたん「得てに帆を上げ」が出た。さらになぜか亭主の好きな赤い烏帽子、「つきに律義者の子沢山」が出る。考えてみるとこれはずいぶんおせっかいな句だとふと思ふ。カルタ取りをしながら祖父に、「これどつという意味？」と聞いたことを思い出した。答えは忘れたが、説明されてもな

んだか意味がわからなかった妙な感じはよく覚えていた。さて、と思い直して記憶をたどる作業を再開しようとしたが、余計な寄り道をしたせいかまた思い出せなくなつた。抜群の記憶力が「子沢山」で頓挫とは情けない。

思い出すきっかけ

勤務先の病院(*)に着き診察室の椅子に腰を下ろして、これまでどつとして句を思い出せたのかあらためて考えてみた。そつだ、絵だ。いろはカルタには絵が描いてある。絵が浮かんで句を思い出していたのだ。今度は絵を意識して思い出してみよう。

旅先の客車であい席になつたもの同士が談笑する心なごむ情景がフト目に浮かんだ。そつだ「旅は道つれ世は情け」である。うん、これだ。仏様の頭の上にカラスがとまつている、あれはたしか「知らぬが仏」。悪党面の男の勢いに善良そうな人がひるんでいる風景は、「無理が通れ

ば道理が引つ込む。大きなお尻がこちらを向いている絵は「頭隠して尻隠さず」。なかなかいいぞ。

屈強な体つき少年が夜道をひとりとはとぼ歩いていく絵「憎まれっ子世にはびこる」、いやそうではない。「ははかる」だ。考えてみると、憎まれっ子がはびこっているほうが現実に近い。63年間も世の中を見ているうちに、少年の頃覚えた句も微妙に変化するのだろうか。立ち上がって診察室の手洗いの鏡で自分の顔を見る。目がだいぶん濁っている。カルタ遊びをした頃の純心な少年の、キラキラ輝く澄んだ瞳とはほど遠い。気を取り直して手を洗う。水の冷たさに深まり行く秋が感じられる。窓から見える病院の庭の樹が紅葉してまことに美しい。とたんに浮かんだ句が「年寄りの冷や水」。思い出すきっかけは絵だけはない。句の口調で思い浮かぶのもある。短い句で「・・・に」というのがあった。そうだと「ぬかに釘」。割れ鍋に綴し蓋もある。

「・・・には」というのもあった。そう「かわいい子には旅をさせ」。それから「・・・れば」というのもあった。「楽あれば苦あり」。

視聴覚教育

こつして、思い出してもメモに書きとめながら、記憶を呼び起こすとき頭はどのように働くのだろうかと考えてみた。句を思い出すきっかけは、始まりの文字のこともあり、カルタの絵でもあり、句の口調もあるが、それだけではない。おそらくカルタ遊びの場面、句を読む者の声の調子とったカルタに描かれていた絵句の意味の解釈をめぐって家族や友達とワイワイ交わした議論、それらが一塊となって記憶されていて、その一端を思い出すと辛づる式にそのときの情景が浮かび、句が思い出されたのだろう。ここまでは考えたとき、昔よく耳にした視聴覚教育ということばを思い出した。目や耳から入る情報を刺激として物を覚えていく。

そうだ、これである。なんだか近代教育法の仕組みがわかったような気がした。

正解率

一日悪戦苦闘したのち帰宅して早速正解はいかにとインターネットで調べてみた。忘却のかなたにあった懐かしい句が大挙して目に飛び込んで来る。「れ」ではじまる句は、良薬は口に苦し」とわかり、ああそうだったと天を仰ぐ、子供の頃「れ」と書いてなぜ「りよう」と読むのだろうと不思議に思ったことを思い出した。さすがにインターネットは情報豊富でいろいろ書いてある。いろはがるたは江戸時代からあり、江戸、京都、大阪、尾張など地方によつて異なること、私の覚えていたのは江戸いろはがるたということがわかった。面白いことに、私が言い間違えたように「にくまれっ子世にはびこる」という地方もある。上方のかるたである。関西の人のほうが現実的なのだろうか。また私が思い出した「ぬかに

釘」は京都かるた、江戸では「盗人の昼寝」といつともわかった。それから「いるは」の最後は「ん」で終わると思っていたが、これは後世の人がくっつけたもので京とするのが正しいのだそうだ。そのため江戸かるたの最後の札は「京の夢、大阪の夢」である。

採点の結果、抜群の記憶力と視聴覚教育の成果を総動員した私の記憶力だめしは正解率 26 / 48 と、5 割をわずかに超えるにとどまった。記憶力減退という現実を突きつけられ苦い思いをしたが、年齢に負けずに口ごろから脳を鍛えよとの警鐘と受け止める奮起する気になった。

「こんにはは・ひとこと」

奥村 秀

「こんにはは」開業して14年目。まだまだゆっくりとする事ができません。好きなジャズをゆっくりと聴きたいです。
(眼科)

まさしく「良薬は口に苦し」である。

(*) 東京都職業共済組合青山病院
2008年3月31日閉院

野生の「キノコ」

浜名 新

私は、大館一夫氏主催の「キノコ入門講座」を何回か受講し、野生の「キノコ」に興味をもつようになった。何回かフィールドワークに参加したが、いつしか年1回の富士山4合目にある奥庭荘に1泊2日間の「奥庭ききの教室・観察会」が定例となった。富士山5合目は標高2540メートルくらいで、御中道の上方が森林限界である。富士山の植物の垂直分布によると、低山帯に「こなら、ぶな」かえで類、ささ類、杉、ひのき、うらじもみ、人工林、亜高山帯に「だけかんば」からまつ、しらびそ、こめつが、うらじもみ、高山帯に「こげ、地衣類、おん

たで、みやまおとこよもぎ」などがみられる。豊かな針葉樹や広葉樹はキノコとの共生関係にある。

私が野生のキノコに大いに興味を覚えたのは、大分以前、近くの公園の「柳の切り株」に出現したキシメジ科の「エノキタケ」を見つけ、ひそかに水をやることに日に成長し、全体で大きな皿のごとくなり、ぼちぼち採取しようと思っていると、誰かが足で蹴散らしてしまった。すごく無念で、何とか食べられるものをいくつか「拾ったとき」である。翌年にすっかりゲットした。公園を仔細に観察し春から夏に「アミガサタケ」「マンネンタケ」を見つけた。

今年9月、富士山の「キノコ観察会」の往路、バスがスバルラインに入ると方スと風が強くなった。5合目手前の「御庭」バス停で下車。登山用の「Leiki」の杖を使い、でこぼこした舗装道路を奥庭荘まで下った。

講師の先生方に「挨拶、皆さんお元気

の様子。山荘の店頭に「シヨウゲンジ」「マツタケ」が売り出されて、豊作のかと期待が膨らむ。「香りマツタケ、味シメジ」この観察会で「松茸」を採ったひとは何人もいない。だれしも今年こそと胸に秘めて参加しているにちがいない。

受付で「入山観察札」を戴く。今年は値上がりし1日用で2000円。参加者は38名で、常連と初参加の若い人たちも多い。採取コースは山小屋より上方の「お庭コース」と、下方の「原生林」コース。初日は風とガスが強く全員原生林コースへ。翌日は「御庭コース」。役員諸氏は迷子にならぬように点呼を繰り返して細心の注意を払う。「はぐれたら動かないで下さい」と。合図で「キノコ目」でキノコの「傘・柄」の上部のくもの巣状の「つば」「柄」の下部の「つば」までをきちつと採取する。林床はコケでふかふかし心地よいが隠れた穴があり油断ならぬ。

初日の観察会は風雨のため山荘内で

翌日は快晴で森の中で。観察用の模造紙を上げ検索手順に分類して「名札」を並べる。子のう菌の仲間の「チャワソウタケ類」、担子菌の仲間の異形担子網の「キクラゲ類」と、真正担子菌網の「腹菌類」と、派生の輻菌亜綱には「ヒダナシタケ目(硬質 マンネンタケ科)・軟質(アンスタケ・カノシタ・ホウキタケ)とハラタケ目の科には多くのキノコが含まれる。イクチ型(子実層托が管孔)、ベニタケ型(柄が縦に裂けない(乳液の有無)。子実層托がヒタで柄が縦に裂ける仲間が多い。ヒラタケ型(柄が側生・偏心性)、ヒタが厚く蠟質のもの(ヌメリガサ科・キシメジ科)、ウラベニワサ型(傘と柄が離れやすくツボとツバのある)テングタケ科、カヤタケ型(ヒタが垂生)のオウギタケ科・キシメジ科、クモの巣状のツバがあるフウセンタケ科、クヌギタケ型のキシメジ科・イッポンシメジ科・フウセンタケ科・ヒトヨタケ科など。自信ある人は採ったキノコの名前を書いている。

キノコの同定・観察会が始まると講師は丁寧に応接。デジカメで写す人、手にとる人。本にとらめっこする人。活気に満ちたひと時。

私はタヌキノチャブクロ、カノシタ、アンスタケ、ケロウジ、アミハナイグイチ、ヤマイグチ、ハナイグチ、オオツガタケ、マムシフウセンタケ、キシメジ、ドクツルタケなど、目当てのシヨウゲンジ・マツタケはゼロ。観察会に毒のドクツルタケ、ベニテングタケ以外に美味しそうなかキシメジが1本。

夕餉のあと「キノコ勉強会」で講師はデモ用のキノコを選び、分類に従って解説された。解説を聞くとその場では分かったように錯覚する。だが、独りになると急に自信消失、お手上げとなる。講師は強調する「キノコは人様にあげないで戴きたい。大丈夫と判断しても突然変異で毒になるかもしれず」持ち帰ったキノコを当日選別・洗い日本酒で炊き料理の「だし」に用いている。

開業ABC

X

中村雄彦

散歩

趣味とはいえないが、散歩はよくする。中学の頃数学や物理の面倒な問題を一つか二つ解くと、家の周りをブラブラ歩いてくる。近所の人が母に「お毛の坊ちゃん、浪人中ですか」とよく尋ねた。警官の不審尋問にあつたことがある。用事も無いのにその辺をただ歩く。今のように

くんぢぢは・ひんじぢ

鈴木 美根子
鈴木 美根子

今治市で耳鼻科を開業しています夫の応援のもと、音楽を専門に学んでおります。年に一度素晴らしいホールで演奏できる機会をとっても楽しみにしております。よろしくお願ひします。(家族)

ウオーキングなどいわなかつた頃の事。

数十年を経た現在もこの習慣は続いている。以前は「ただ歩くのではなく犬を連れていけ」「スケッチをしてこい」など色々いわれた。戸外のスケッチは眼を傷める、やるべきでない。わざわざ車を止めて「何処へ行く、乗せてやる」と余計なことをいうものもいた。今も「もっと早く歩け、運動にならない」「手を大きくふれ」などというさくさくいう奴が絶えない。「不動産探ですか」というものまでいた。金にならないと動かない。意味のないことはしない。貧しい思想である。

私の父は東京麻布の地主の長男で東大経済学部を卒業し、旧制新潟高校をでた縁で私の母方の祖父が副頭取だつた新潟市に本店のある第四銀行に入行、日本橋の東京支店に勤めていた。東京麻布にいた小学校の戦時中、今も時々テレビにでる近くの麻布の善福寺に集められて上級生の後について麻布区立南山小学校に登校する。今まで好き放題に近所の〇君と

卒園した仙台坂の上の安藤幼稚園を通つ

たり、わざと遠回りをしてオーストリア大使館のある暗闇坂を降りて登校していたものが毎日つまらない麻布十番通りの同じ道を並べられて行く。時々さぼり、違つ道を自分たちで選ぶ。怒つた上級生が校庭で見つけて殴る。そいつは今でも覚えてる。いたら殴り返してやろうと思つが、どうせ碌な奴でないからもう死んでいるだろう。

最近はやたらに健康と称して、歩くのが盛んである。「歩こう会」といい、集まつて歩く。戦時中の集団登校と同じだ。戦争の時は空襲の時に一斉に避難するといふ配慮だろうが、空襲の防空壕を集中的に爆撃されて大勢「く」なつたといふ記録もある。集団で寄つてたかるのはよしあしである。

最近人々がやたらに歩きだしたのは「メタボ改善のため」と、医者言つたことを真に受けた結果でもある。画一的行政の得意なところ。戦時中でもいろいろ

るあった。平和なやることのない今、何とか仕事を作ろうという当局の苦労の結果である。

私はただ歩くだけで60年たち、特に健康法をすることなく古稀を通り越した。別に健康に異常はない。これまで大病の経験もない。現在も今ままでおり論文作成、学術講演をこなし連日多数の患者を診ている。東京や大阪をはじめ遠隔地からの来診者もある。人はどうであれ自分がよければよい。人様には自分のやっていることはお勧めしない。各自、自分の好きに続けることである。

最近はずで行くドライブ散歩もする。自宅から30分ほど車に乗り1時間近く家内の買ってくれた熊よけの鈴を腰につけて山の中を歩く。私は20歳台で免許をとり家内は大学生の時とつたが、勉強の邪魔と50歳まで車は持たなかった。50歳でマイカーに乗りだした頃、何時免許を取ったのですか。「奥さんは偉い、一発で免許を取った」といつもまっていた。

必要に迫らなければやれない、俗人の常である。

これまで時間をかけて通勤通学はしたことがない。高校からは重役になった父の勤務で新潟市に暮らしたが、もともと



椿山荘にて(昭和48年ごろ)

新潟県は低進学県、それでも高校は県内トップの進学校、今もそつだが成績順で五、六十番までは東大をはじめ旧帝大、旧国立医大に入る。私も両親の家から徒歩15分の新潟大、同大学院をストレートで終えた。大学医局から皮膚科部長とし

て赴任した病院は広大な敷地に宿舎があった。通勤などない。

開業は自宅をかねた医院。一步も外へ出ないで一日過ごせる。自宅には50坪ほどの屋上がある。退屈すると歩く。勿論邪魔な植木などない、もっぱら歩くだけのために造つた。自宅開業を最近嫌つて住居だけ別にする人がいるが、その利点は限りなくある。まず必要な文献は直ぐに手に入る。家即書庫。お陰でこれまでに世界初、本邦初が10篇近くあるドイツ語英語をはじめとする60篇を超える学術論文作成と70回を超える学会発表をすべて開業してから行つてきた。

昭和60年には学術的著しい業績で「日本医師会最高優功賞」を受賞した。昨年朝日文庫からでた日本人脈記第4巻の医師編で「日本の60名の名医」の中に脳外科、心臓外科の医師たちと並んで全国で只一人の皮膚科医として記載されている。朝から気兼ねなくバイオリンも弾ける。すべて自宅開業のお陰である。

私はドイツ語を高校の時ドイツ人について習ったが、フランス語とイタリア語は全くの独習、50年ほど続けている。以前フジオの女性フランス語教師が「フランス語上達の秘訣は止めないことです」といったが、私は止めないわりには上手くない。しかしヨーロッパでは日常会話には不自由しない。

ミュンヘン大学に留学し、最近でもヨーロッパに年々2回行く。ヨーロッパではクラシックコンサートと美術館めぐりが主。小学校から現在も続けているク

こゝろちは・ひつじ

萩野 仁志

父の萩野昭三がお世話になって
来ましたが、父が築いて来た伝統
に新しい風を吹き込む芽ができた
ら幸いです。どうぞよろしくお願
いします。クラシックとジャズレ
アノを演奏します。(耳鼻咽喉科)

ラシック音楽のコンサートがよいはヨーロッパでも同じ。最近の新潟県医師会報に「ヨーロッパ・クラシックコンサート50回」という小文を書いた。3年前チューリッヒ大学のブルク教授の招待で1ヶ月近く滞在したスイスでは、ルツェルン音楽祭、チューリッヒ歌劇場など11回コンサートに出向いた。美術館もヨーロッパの主なところは殆ど行っている。

散歩は日常のもので学習とは全く別だが、何となく60年も続けている。今後ともこのままいくであろう。

陸続きの国境

豊 泉 清

全国各地に三国山や二国岳という名称の山がある。群馬県の上野村の南端にも三国山という山がある。群馬と埼玉と長野の三つの県が接している地点であり、旧国名では上州と武州と信州の接点である。その他にも広島、鳥取、島根の三県

の県境が接している地点に三国山という山がある。また福井、滋賀、京都や、福井、滋賀、岐阜や、三重、滋賀、岐阜や、福島、新潟、山形のそれぞれ二県の接する四ヶ所の地点に三国岳と呼ばれる山がある。山梨と埼玉と長野の三県の接する地点に甲武信岳という山がある。山梨県の甲州と、埼玉県の武州と、長野県の信州のそれぞれ頭文字を連ねた名称である。三国山や三国岳という名称は、昔の三国の境界が接する地点に位置している山であることが分かる。

実は愛知県と岐阜県の県境にも三国という山がある。昔の国名では三河と尾張と美濃の三国の境界だったが、現在は三河と尾張が愛知県になっているので、地図の上では愛知と岐阜の二県の県境にある。同様に大阪府と和歌山県の境にも三国山がある。昔の国名では河内と和泉と紀伊の三国の境界だったが、河内と和泉が大阪府になったので、地図の上では二府県の境になっている。一県の境界にあ

るのに三國と呼ばれる理由は、歴史的な考察から直ちに理解できる。

上述の場所以外にも、三県の県境が接する地点に聳える山がいくつもあるが、三國山や三國岳と呼ばれる山は見当らない。例えば、群馬、栃木、福島の県境には黒岩山と呼ぶ山があり、岩手、秋田、宮城の県境には栗駒山と呼ぶ山があり、また山口、広島、島根の県境には冠山といふ山がある。

余談だが、群馬県の旧新治村を通つて新潟県の湯沢温泉へ向かう国道17号にある三國峠が群馬と新潟の県境である。二県の境界線上にあるが、何故か三國と呼び、地図上の所在地と名称が一致していない。地図をよく見ると、三國峠の少し西にある白砂山が群馬、新潟、長野の三県の県境に位置している。因みに田の字の中心部のように、四つの県境が接している地点は存在しない。

数年前に日独協会という団体が企画したドイツ研修旅行に参加したことがある。

旅程の中にドイツ、ベルギー、オランダの三ヶ国の国境が接する地点を訪れるバス旅行があった。ベルギー国境に近いドイツのAACHEN(アーヘン)という町の郊外にある。標高300mほどの高い丘陵地帯であり、観光バスで楽々と到達できる。税関もなく、パスポートの検閲もない。「ここが三ヶ国の国境」と書いてある碑が建っており、三ヶ国の国旗が掲げてある。観光バスがずらりと並び、大勢の観光客で賑わっている丘の上の森林公園で、物々しい国境という雰囲気は全く感じられない。世界地図を広げると、ドイツ、ポーランド、チェコや、フランス、イタリア、スイスや、ロシア、フィンランド、ノルウェーなど、三ヶ国の国境が一点で接する場所が何ヶ所も存在する。

余談だが、世界でただ一ヶ所、四つの国境が一点に接している場所がある。アフリカ大陸の南部で、世界の三天瀑布と呼ばれるビクトリアの滝の近くでジンバ

ブエ、ボツワナ、ナミビア、ザンビアの四ヶ国の国境が一点に集中している。

周辺を海で囲まれている国で暮らしている私も日本人には、陸続きの国境という意識や概念は、全く無縁の存在である。

旧制高校の自由と反抗

小川 再 治

私は戦時中、リベラルな旧制成城高校で、幼稚な自由主義を土台にした、反戦反軍思想を持っていた。京都の三高は成城よりもリベラルだったらしい。私より若干年長の梅木薫という方の「平安三里に」という三高生活回想の本を最近読んだが、三高は成城以上に戦争と陸軍を嫌っていたことを知った。私ほど過激な生徒は少なかった様だが、厭戦・厭軍のカラーがあったらしい。

三高で軍事教練が行われた日に、配属将校が陸軍で行つよつな戦意高揚の演説

をぶつていた時、反軍派のAがそっぽを向いていた。配属将校は激昂し、「前へ出る」と叫んだ。Aがのろのろと前に出た時、配属将校はAを裸にして軍刀で殴り倒した。殴打はAが死んだ様に動かなくなつても、止まなかつた。

その時、Aとは交際はないが、やはり軍人嫌いの激情家Bが飛び出して来て、「馬鹿野郎」と怒鳴つて将校を小銃で殴り飛ばしてしまつた。全生徒は凍りつい

た様になつたが、将校に対する怒りと反感が充満していたとか。その後ほとんど全生徒が署名した「Bを放校しないで下さい」との嘆願書が学校に提出された。

しかしBは放校になり、京都から消え去つた。私はAとBに深い同情を覚えた。若しBが存命していたら是非会いたい。また、Aが殴打で落命しなかつたことを祈つている。

若しこの時、私が三高生だつたらどう

しただろうか。クールで臆病な私だが、矢張り肝を据えて将校の所に直行しただろう。そして彼の前に土下座して、「これ以上殴つたらAは死んでしまいます。許してやって下さい」と叫んだと思つ。

将校も、「こいつが死んだら面倒だ」ぐらゐの事は思つていた筈だ。私の嘆願を渡りに舟と思ひ、「以後気をつける」と叫ぶぐらいで許してくれたのではないだろうか。

佛頭

池田 壽雄

①

大阪府泉北郡忠岡町に正木美術館があります。この美術館正木孝之氏まさきたかしのによって創立された財団法人の美術館です。所蔵品は500年前に描かれたり書かれたりした山水画300点を中心に、1300

点余とされています。

その一つに中国の雲崗石窟うんこうにあつたといふ仏頭があります。これは第二次世界大戦のころ、泥棒が石窟にある仏様の頭を切り落とし、そこから丸1日かけて馬で北京まで運びだし、それが数人の業者を通じて日本へ運ばれ、正木氏の所蔵となつたものです。

この話は、正木氏ご本人から直接私が聞いたものですから、信頼性は高いと信じています。石窟は、岩盤を切り開いて

作られます。想像を絶するよつな長時間

をかけて人工的に洞窟を掘り、その中心に仏像を祀るのです。現場の石を刻んで仏像を作るわけですから、他所から運び込まれたものではありません。ですからもつとも腕利きの石工がこの佛頭を彫つたに違いありません。

ですから、正木美術館の佛頭は穏やかな表情をしておられ、なかなかいいものです。何番目の石窟の佛頭であるかは明らかになっていません。戦争が終わつた現

在では、中国政府から返還を要請される
かも知れないが、と正木氏は語っていま
した。

2

佛頭を彫刻するのに興味としていた方
がいました。この方をAさんと呼ぶこと
にしましょう。Aさんは決してプロでは
なくて、日曜日などを利用して、石材店
から入手した石に彫刻するのです。慣れ
てきたので、彫るスピードが早くなって
わずか1日で1個の佛頭を彫るまでに腕
が上達していたそうです。

彫り上げた佛頭は、決して自宅に積み
上げたりしないで、希望者にはごんごん
差し上げて、つまりプレゼントしていま
した。

ある日、知人の家にAさんが招待され
ました。お座敷があつて、そこから和風
の庭園が見晴らせました。すると、Aさ
んは庭の片隅にいかにも古びた佛頭を見

つけました。苔が石にはこびりついてい
て、いい表情をしていました。

「いい佛頭ですね。どこから手に入れた
のですか？」

Aさんは知人に質問しました。

「え？ 4年前に君からいただいたもの
じゃないか？」

Aさんは驚いたのは言うまでもありま
せん。庭に自分の作品を置きっぱなしに
した経験がなかったからです。Aさんに
よれば、佛頭というものは特別なものな
ので、『大きいヨミ』扱いされて、捨てら
れる危険がないということでした。作者に
とって、自分の作品が捨てられるくらい
残念なことはないのです。

3

私自身が57歳の時です。暮れの12月
でした。私は1938年生まれですから、
1995年だったと思います。

私は泉北ゴルフ場という打球場に練習
に行きました。偶然、隣の打席にTさん

がいました。Tさんは和泉市の聖神
社の神主さんでした。かつて和泉ロータ
リークラブの会長だったところに私はTさ
んと知り合ったのです。

「いやあ、久しぶりですね。どうしてま
すか？」

Tさんは私に話しかけてきました。

「佛頭を彫ってみたい気になりましてね
その準備ができたので、明日から木彫り
で佛頭を彫るつもりであります」

Tさんのそれに対する返事は、意外な
ものでした。

「人間がそういう気分になるのは、死が
近いときだと言われてますよ」

私はその返事に驚いて、計画を中止し
たのは言うまでもありません。私は凝り
性の性格なので、それまでに佛頭を彫刻
するために入念に準備しておりました。

大阪市梅田の大きな『紀伊国屋書店』
で3冊の専門書を求めていました。2万
円が3万円はしたと思います。

堺市の刃物の専門店「一貫子忠綱」で

25000円もする彫刻セットも買っていました。この店の奥様は私の妻の中学生時代からの親友だったので。刃の形がいろいろな刃物が、5点入っていました。

知り合いの建築会社「宏網建設」の社長に話したら、桜をよく乾燥させた木材を7点も頂戴していました。

さらに、モデルが必要と考えて、診療所の近所にあった古美術店の『変手土白林』で本物の佛頭も入手していました。元値は15万円でしたが、店の主人が7万円に負けてくれました。

でも、後でTさんの忠告は真実だったことが判明したのです。

4

持つべきものは『友人』です。

私の妻は大阪に来てから茶道を習い始めました。最初のころは表千家、次に武者小路千家、最後に裏千家を習いました。裏の先生は、大阪市帝塚山に住んでおら

れ、お弟子さんも、会社社長夫人などリツチな人がたくさんいました。そのうちに、お茶を通じてたくさん友人が妻にはできました。特に仲のよい友人とは、夫婦そろって交際するようになりました。そうして1年に1回程度、1泊2日で

旅行も夫婦そろってするようになり、今度は亭主のほづが喜んで行くようになったのです。福井県の金沢市、和歌山県の串本市に行ったことなど印象的です。

和泉市では秋祭りの地車祭りたんじりが盛大に行われます。そのときには拙宅で招待したものでした。

『佛頭』事件の3カ月後、つまり1996年3月上旬の日曜日の夜、私は友人のH氏から自宅への招待を受けました。彼は店舗改装工事を手広くやっていて、

年商10億円ほどの会社を経営する工務店の社長でした。自宅は大阪市千日前にあり、5階建てであり、その5階に和室の応接間があり、中央には囲炉裏が切つてあつて、『牡丹鍋』をご馳走してくれま

した。招待客は私を含めて8人程度だったと記憶しています。牡丹鍋とはイノシシの肉を、囲炉裏の中央に吊るした鉄鍋で煮ていたのです。千日前は大阪市のミナミの中心街であり、『黒門市場』がすぐ近くにありますが。

やがて肉が煮えると、井に野菜と一緒にたくさん肉をよそってくれました。そうして、『山椒入り胡椒』の小さなビンが出されました。私は耳かき1杯位の少量を井にかけて食べよつとしました。そのときに、Hさんが、大声を出しました。「いかん、いかん、胡椒はこれ位入れないと」

言ったかと思つと、たちまち5杯も胡椒を入れてくれました。それが日曜日。

その週の水曜日でしたから、牡丹鍋のご馳走から3日たっていました。午前6時ごろ、私は排使して吃驚びっくりしました。トイレの水が真っ赤に染まっていたからです。まるで赤インキの壇を全部撒いたか

のような鮮紅色でした。その日は午前中は仕事（内科の外來）をして、午後から鳳胃腸病院を受診しました。内視鏡の検査の結果、肛門から7cmの場所の直腸に直径約2cmの腫瘍があるのが発見されて、組織の病理学的診断では『直腸がん』といわれたのです。さいわい、どこにも転移のない早期がんの状態で見えられました。

おそらく『山椒入りの胡椒』の刺激が強くて、粘膜ががんから出血したのでしょう。その2週間後に、病院に入院して切除術を受けました。約1ヶ月間の入院の後、退院しましたが術後経過は極めて順調であり、13年後の現在も元気に暮らしています。

持つべきものは『友』です。Hさんからの招待がなければ、私は今頃には直腸がんのために黄泉の国へ行っていたに違いないありません。

それにしても、神社の神主のT氏の予言の正確さには恐れ入りました。



5

佛頭について、その鑑賞法について考えましょう。私が古美術店の『彦幸王古林』で求めた佛頭（写真）で説明したいと思

います。

この仏像は、頭部と胴体とが別々に彫られた仏様だと推定されます。それは頭部より下方が円柱形になっているから、胴体の中にはめ込まれる構造になっているから判ります。

ところで、お寺の本堂にある仏像は、祈りの対象です。下の方から見上げられながら鑑賞されます。ですから、仏師ももちろんそれを想定の上で彫刻したことでしょう。

美術館で鑑賞される仏様とは異なるのです。

これは正面からやや見上げた場合の姿です。優しい目の温顔です。祈る人を憐れむような慈悲を感じさせます。目は瞑つていなくて、所謂半眼の状態です。

カメラの位置を少しずつ上方へ移動してみますと、仏様の表情が微妙に変化していくのが理解できると思います。見上げる場合にはいかにも仏様が偉そうに威張っているように感じますが、こちらの

目線が上の方へ移動していくと、その威圧感がうすれていくのが分かります。

話は変わりますが、野良猫の世界では体の位置が少しでも高い方が偉いのだそうです。猫同士で喧嘩して、Aが勝ちBが負けの場合には、次にあった場合には必ずAが高い位置を占めます。

野良猫が塀の上にいるのを発見するところがあると思いますが、下の地面に他の猫がいる場合には、この常識を思い出して眺めたり楽しいと思います。

私たち人間の世界でも、学校では『教

けんには・ひと

後 藤 雅 久

このたび、大武秋筆先生の御紹介により、写真部に入会させていただきました。未熟者ですので、よろしく指導くださいますようお願い申し上げます。(胃腸科)

壇』があつて、先生はその上から講義をしています。お寺に行くつと僧侶は一段と高い席から講話をします。これにはちゃんと理由があつて、動物の原始本能が人間にも残っているのです。

戦後、同じ目線で、目の高さで、平等を間違つて教えていました。戦前の姿が、教師と生徒との関係には正しいのです。

仏像は単なるモノではありません。そういう風に考えた人は、昔風な表現をするなら、『バチが当たります。』これは、日本人特有の表現で、英訳が極めて難しいとされています。

仏像に向かつて、私たちは祈りを捧げます。西洋人はパートタイマーのような祈り方をしますが、日本人は正規雇用の社員のような祈り方を言った人がいます。

なぜなら、西洋人は生真面目に口曜日ごとにキリスト教会に通つて祈るが、他の曜日にははいたい放題をしている。他方

日本人は起きている間は、つまり曜日とは一切関係なしに、いつも仏様のことを考えながら、『バチが当たらない』行動をしているというのです。

祈るときには仏様に決して要求してはならないとされています。ただ、今日一日が無事で過ごせることを有難い、と感謝を捧げるのです。そうすれば、私たちの心に平安が訪れます。

どの世でも、人々は大変な時代に生きていたことでしょう。安楽な日々は少なく、苦難と苦勞に満ちた毎日だったでしょう。先祖がそこを生き延びてくれたからこそ、わが身体と心がここにあるのです。有難いことです。

次号は「文会特集号」です。
12月中旬に発行予定。内容要案
内は43頁に。冬季号は1月、
旬発行になります。投稿規程
は39頁をご覧ください。